

追 悼

中村義輝*: 故山田幸男先生の御葬儀に参列して Yoshiteru NAKAMURA*: Yukio YAMADA, 1900-1975

日本藻類学会名誉会長山田幸男先生は藻類学の上に多大の業績を遺されて昭和50年7月6日御逝去になりました。先生は昭和28年に同志とはかり日本藻類学会を設立され、発会以来、昭和39年北海道大学を停年退官されるまで会長として会の育成発展に尽されましたが、本学会の25周年記念の日を間近かにして先生をうしなつたことは洵に痛恨の至りであります。

先生は明治33年8月14日のお生れで、もうすぐ満75才を迎えられるところでしたが、生来非常に頑健で病氣らしい病氣をされたことを伺つたことはありません。ところが、4年前の夏札幌で第7回国際海藻学会が開かれたとき、先生は、はるばる京都からお出かけになつたのに学会に出席されず、その時は腰が痛くて長く坐ってられないので憂心をしているとのことでした。いまにして思えば先生の宿病はこの時すでに始まつていたわけであります。しかし、先生はその後も藻類学会には必ず出席され、昨年9月の日本植物学会大会には、はるばる札幌に来られ、藻類関係の研究発表をきかれ、藻類学会の総会と懇親会にも出席されました。懇親会では恒例の1分間スピーチの最後に立たれて、発会当時の思い出を語られ、お話が終わると同時に9時の門限が知らされ、これが奇しくも先生の藻類学会での最後のお言葉となりました。

先生の御葬儀は梅雨空のカラリと晴れた7月8日の午前11時から京都市泉湧寺山門前のご自宅で、しめやかにとり行なわれました。御遺族、御親戚を始め各地から集まつた門下生たち、その他多数の会葬者の焼香がつぎつぎと後を絶たず、先祖代代古くから受けつがれた土塀に囲まれた武家屋敷の中に香煙たちこめて、簡素で厳肅な真に格調高い御葬儀でした。葬儀の翌朝奥様から御臨終の様子などつぶさに伺いましたが、先生は最後まで苦しいとか、痛いとか、周囲の者を困らせるようなことは申されず、7月6日の午後は明日からの入院の準備を済ませ用を足されてから倒れられたまま病院に運ばれ、午後6時50分安らかに永久の眠りにつかれたとのことあります。4人の御令息に囲まれての奥様の淡々たるお話を拝聴しながら御多幸だった先生の御家庭を今更のように沁々と感じました。先生のご葬儀に参列し、ありし日の先生を偲び心から御冥福をお祈りする次第であります。

(札幌市中央区北4条西22丁目)